

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 73号

2013/11/11 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：火曜日にテクニカル要因で急伸も、先週と変わらないレンジに戻り安定

①週最高：3月 LDN 市場 £1,738 /12月 NY 市場\$2,745 (11/5) 先週比 **LDN + £34 / NY + \$61**
②週最低：3月 LDN 市場 £1,696 /12月 NY 市場\$2,654 (11/4) 先週比 **LDN+ £6 / NY+ \$3**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £42 (傾向→) / NY 市場\$91 (傾向→)
週内建玉推移：LDN市場 236,660枚(11/1終了時)⇒238,887枚(11/7終了時) **+2,227枚**
NY市場 220,465枚(11/1終了時)⇒214,739枚(11/7終了時) **-5,726枚**

【11月4日(月)】ニューヨーク、反発＝ロンドン続落

ニューヨーク市場の12月きりは反発し、3ドル(0.1%)高の**2654ドル**で取引を終えた。西アフリカ地域の収穫進展が相場を圧迫し、一時は1カ月ぶり安値となる2630ドルまで下げる場面もあった。ロンドン市場は続落し、3月きりは6ポンド(0.4%)安の**1696ポンド**で引けた。

【11月5日(火)】ニューヨーク、ロンドンいずれも急伸

ニューヨーク市場では、12月きりと3月きりのスプレッド取引が活発化したことや、テクニカル要因を背景にした買いに押し上げられ急伸。3月きりは78ドル(2.9%)高の**2745ドル**で引けた。対ドルでポンドが上昇したことや、2705ドルを突破し、プログラム買いが入ったことも相場を押し上げた。商いは推計6万枚と、250日間平均の2.5倍超に達した。ロンドン市場は反発。42ポンド(2.5%)高の**1738ポンド**で引けた。

【11月6日(水)】ほぼ横ばい

ココア先物は、前日の急伸を受け、ほぼ横ばいとなった。ニューヨーク市場の3月きりは、2ドル(0.07%)安の2743ドルで引けた。前日、チャートに基づく買いで急伸したため、この日は値固め局面となった。

シティグループの先物スペシャリスト、スターリング・スミス氏は「前日の買いは、やや過剰だった」と指摘した。ロンドン市場の3月きりは、3ポンド安の1735ポンドで引けた。

【11月7日（木）】両市場とも下落＝利食い売りに押される

両市場とも下落。主産国のフィリピンに強い台風が接近する中、利益確定の売りが続いた。

ニューヨーク市場の3月きりは50ドル（1.8%）安の2693ドルで引けた。トレーダーの間では、次の下値支持線は2630ドルとの見方が出ている。

ビジョン・フィナンシャル・マーケットのアナリスト、ボイド・クルエル氏は「5日の急伸の反動で手じまいや利食い売りが出ている」と分析した。ロンドン市場の3月きりは23ポンド安の1712ポンドで取引を終えた

【11月8日（金）】両市場とも続落＝買われ過ぎ感

ロンドン、ニューヨーク両市場とも続落。トレーダーらによると、ロングポジションが過去最高水準に積み上がっており、買われ過ぎと判断された。

ニューヨーク市場の3月きりは22ドル（0.8%）安の2671ドルで引けた。市場のファンダメンタルズが相場を下支えしている。

ロンドン市場の3月きりは4ポンド（0.2%）安の1708ポンドで引けた。欧州系のあるトレーダーは「市場参加者の一部は商いを手控える動きを見せており、今週はかなり静かな取引が続いた」と指摘した。

2、インドネシア・ココア協会見通し、13年カカオ豆輸出は14%減(11/5)

インドネシア・ココア協会（ASKINDO）は4日までに、2013年の同国カカオ豆輸出量が14万トンと、前年度の16万3501トンから約14%減少するとの見通しを示した。ズルヘフィ・シンクンバン事務局長は、大雨の影響でブラックポッド病が発生したことなどを理由に挙げた。ただ、輸出量は従来見通しから40%の上方修正となった。ASKINDOはカカオ豆生産量が43万トンとなり、前年度の45万6000トンから6%減少すると予想。これまでの見通しは45万～50万トンだった。

3、コートジボワールのカカオ豆生産見通し、降雨で改善＝不安残る地域も(11/5)

コートジボワールのカカオ豆の2013～14年度メインクropp（今年10月～来年3月）は、先週主産地全域で十分な降雨があったことで生産見通しが改善した。だが、一部では作物の病気による不安が解消せず、道路状態の悪化が買い付けの足かせになっている地域もある。

メインクroppの生産は先月、天候不順に伴う収穫高や豆の品質への懸念の中で始まった。輸出業者や粉砕業者らは、収穫に関する不安を踏まえて早い段階から豆の確保に動き、需要増とともに国際相場の押し上げ要因となった。

生育条件は先月着実に改善し、アナリストによると生産地帯の中心であるスプレの雨量は先週52ミリと、前週の5ミリから大幅に増加した。アブグボビルとティアサレ、ブアフルとメグイ、アボイツソでも良好な生育条件が報告された。ただ、ニアブレでは道路通行が不可能になり、農家が収穫した豆を出荷できない状態にある。また、ドゥエクエでは先週十分な降雨が2度報告されたものの、ブラックポッド病（ポッドに付く黒いカビ病）の発生で生産が既に打撃を受けている。

4、コートジボワールのカカオ豆着荷量、147万6868トン=12~13年度(11/7)

5日までに入手したコートジボワール経済財政省の統計によると、2012~13年度（12年10月~13年9月）の同国主要2港（アビジャン、サンペドロ）でのカカオ豆着荷量は9月30日時点で、合計147万6868トンとなった。前年度（148万5882トン）とほぼ同水準。また、輸出業者の推計によれば、13~14年度（13年10月~14年9月）の10月の着荷量は約21万トンで、前年同月の14万2000トンを上回ったもよう。

5、アジア市場：直近バターの需要が依然レシオの高値を維持、パウダーは変わらず (11/8)

- ・アジア市場でのココアバターレシオ：2.7~2.8
- ・アジア市場でのココアパウダー価格は\$1,300-\$1,500/トンにて案内

アジア市場ではチョコレートメーカーからのココアバターの買付けがレシオを下支えし、これは既に終了したと考えられていた年末までのココアバターの需要の買付けがまだ終了していなかったこと示唆した。一方、ココアパウダーの価格は依然と変わらず一定のレンジにとどまっているとシンガポールのディーラーは説明した。

今年中のデリバリーのココアバターの市場価格はロンドンの先物市場価格に対して、2.7~2.8倍であった。この水準は、10月中旬にもあった直近の7年間でもっとも高い水準と同様。また欧州市場での年内デリバリーのココアバターの価格は2.88倍であった。

『ココアバターレシオはまだ上昇しているとも言ってもよい。何社かのバイヤーは、市場にこのデリバリー時期のココアバターの供給がほとんどない為、もっと高値を払っても買付けを行いたいと思っている状況もある。』シンガポールのディーラーは言う。

『まだ年内中のココアバターの需要はあるね。需要は非常に大きいものではないけれど、おそらくいくつかのバイヤーは、彼らのサプライヤーの出荷が遅延したり、または出荷が出来なくなった分の補てんをしなければならないのかもしれない』

パウダーの価格は上昇の傾向が見られない。チョコレートメーカーの在庫は潤沢だ。価格については現在、トン当たり\$1300~\$1500のレンジで固定されており、変化がない。今年の1月には\$4,000であった為、パウダーの価格は今年大きく下落している。

しかし、今週世界最大のチョコレートメーカーであるバリーカレポーはココアパウダーの価格は、在庫の過剰感が薄れてきた為、ほぼ底を打つだろうという見解を発表した。

来週の値動きの予測としては、年内デリバリーの需要に支えられ、ココアバターのレシオは今週と変わらないだろう。

今週の関連記事：温暖化、最貧国に打撃＝観測所整備必要―シエラレオネ(11/9)

地球温暖化が原因とみられる気候変動は、途上国の中でもとりわけ開発が遅れている最貧国で、人々の生活に深刻な影響をもたらしている。西アフリカに位置するシエラレオネもそうした国の一つ。シエラレオネ大学のカバ・バングラ講師（地理学）は8日までに時事通信に対し、同国では予想外の嵐や長期間の降雨不足などにより、農作物の収穫量が減少していると指摘。被害を抑えるため、気象観測所の整備などが必要だと訴えた。

バングラ氏によると、シエラレオネの人口の7割以上は農村地域に暮らし、主に農業で生計を立てている。だが近年、雨期でも雨が降らないばかりか、乾期も長引き、季節外れの嵐も頻発するなど、気候パターンの変化が顕著になっている。

シエラレオネでは2002年、10年以上続いた内戦が終結し、政情も落ち着きつつある。だがバングラ氏は「内戦の影響もまだ残っているのに、人々が暮らしのよりどころとする土地が、気まぐれな降雨や嵐など非常に厳しい環境に直面している」と話した。

バングラ氏が同国沿岸部と内陸部の2カ所で行った調査では、農作物の収穫量の減少や食料・水不足などが報告された。同氏は「収穫量は農民の収入に直結する」と指摘し、親の収入減で子供が学校に通えなくなるなど、悪影響が出ることに懸念を示した。同氏は、気候の変化は農民が代々受け継ぐ知恵や経験を超えているだけに、「農村に気象観測所がなく、気象を予報できないことが事態を悪化させている」と分析。「多くの観測所が内戦で破壊され、残っているものも機能していない」と語り、シエラレオネ全土での気象観測体制確立が急務だと強調した。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらも何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp